

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400598		
法人名	社会福祉法人 正寿会		
事業所名	グループホームひまわり荘		
所在地	兵庫県神崎郡市川町下牛尾2537-1		
自己評価作成日	平成24年9月8日	評価結果市町村受理日	平成24年10月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2873400598&amp;SCD=320&amp;PCD=28">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2873400598&amp;SCD=320&amp;PCD=28</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成24年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然に囲まれ、その中でスローライフで生活してもらっています。  
畑を作り野菜や花を育てたり、ホールからは堀の中の金魚に餌をやったり話かけたりして大切に育てています。  
裏山では山菜が採れ、季節の料理に舌鼓をうち、たまに山から動物が降りてきて私達に「こんにちは、をしてくれ、驚かせてくれます。  
グループホームの建物は高い丘の上にとっているの、絵葉書のような風景を見て楽しんだり、四季の移りかわりを目や肌で感じることができます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自動車で播但自動車道市川南ランプを降りて東へ10分程行った山間に位置し、法人の特別養護老人ホーム、デイサービス事業所、居宅介護支援事業所等が同一敷地内にある。周囲は山で、樹木が茂り小川が流れて四季折々の自然の恵みが豊かにあり、住む人に落ち着きと安らぎを与えている。梅・栗・柿・花梨の実がなり、たら・つくし・わらび・よもぎ等が食材として利用者に喜ばれている。9月に創立10周年が祝われたばかりであるが、地域で超高齢化が進む中であって併設の事業所群と共にその役割の重要性がますます増してきている。法人及び事業所の理念が全職員に浸透して職員の意識は高く、日々のケア提供の中で人間の尊厳と自立支援を大切に一人ひとりに応じた利用者本位の取り組みが実践されていることが窺える。利用者の表情は一樣に明るく穏やかであり、それぞれのペースでゆったりと過ごされている。今後の取り組みに期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人職員一同で理念の共有を図っている。グループホームでの具体的な取り組みに活かしている。	法人の理念を基に、年ごとの事業所独自の理念(方針)を立てている。1月～3月の職員会議において、話し合い、1年を振り返りながら作られている。職員にも周知され、玄関に掲示して、皆で共有し、実践に向けて努力している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方、又、利用者のご家族の方が旬の野菜を届けてくださる。地域の行事にも参加できるような行事なら声をかけてもらっている。	小学校の運動会、収穫祭、村の盆踊りなどに参加している。また、近所の区画割りされた草刈りも協力している。事業所周辺は高齢者が多く、家の中にとじこもりがちのため、事業所で敬老会を開いて、バスで送迎し、交流の場となるよう、働きかけるなど、積極的に地域との交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には外出時ボランティアを依頼したり、地域へ外向いたりして関わりをもってもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や行政担当者にグループホームの取り組みについて理解してもらいました。	民生委員、役場職員2名、地域包括支援センター職員2名、法人役員、家族、利用者の参加により、開催している。会議録は職員に配布している。災害時の避難先について、アドバイスをもらったり、家族から活発に意見が出されるなど、有意義な会議となっている。	23年度の目標達成計画において、2ヶ月に1度の開催を目指したが実施できなかった。参加者を固定せず、議題に応じた出席者を要請して、幅広い意見を得る工夫と、年6回の開催を実現してほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町が進める社会福祉関係の策定委員会に年4回出席している。機関紙を町の担当窓口へ渡し、情報提供を行っている。	市川町の策定委員会に出席して情報を得たり、意見を述べている。法人単位で協力関係を構築しており、相談をもちかけることもある。町を通して、機関紙を民生委員に配布してもらおうなどいい関係が築かれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間ドアにカギをかけているが、それ以外は開けている。利用者が外に出られる時などは付き添ったりしている。身体拘束廃止委員会などの取り組みがある。	身体拘束はしない方針である。身体拘束廃止委員会を設置して話し合いをしたり、研修を実施している。転倒のおそれのある利用者に対して、家族から拘束の希望があったが、説明、納得していたが、拘束はしなかった事例がある。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議の中で、研修などあり、身体拘束廃止委員会などからも呼びかけている。	QOL向上委員会の中で話し合いが行われ、事例に基づいた研修を実施している。職員のストレスについては、互助会を設置し、慰安旅行、忘年会、新年会等に参加することにより、解消につなげている。	職員のストレスの対応策として、互助会での団体活動だけではなく、夜勤明けの声かけ、個別のコミュニケーションを図るなど、きめ細かなケアを考えてほしい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なときは活用できるよう、運営推進会議で役場や地域包括センターの方から説明をうけた。	以前に成年後見制度を利用していた利用者がいたので、事業所内において研修を実施した。相談に対応できるまでには至っていないが、パンフレット等を設置して、関係機関への案内ができる体制は整えている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問題点に応え、十分な説明を行っている。	説明は施設長、計画作成担当者が行う。費用面、退所の条件等、利用者の気になる点について、ていねいに説明し、納得されて契約している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で家族会を開いている。 利用者からは、月1回の寄合の際、意見や希望など本人の選択で言ってもらっている。	年2回法人全体で開く家族会で意見を聞かせてもらうようにしていたが、意見が出ないため、事業所独自で話し合いの場を持ったり、毎月開く事業所の寄合で入居者の意見を聞くなど、積極的に取り組んでいる。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	希望時や年1回面接を行い、思いや意見を聞くようにし運営に反映できるようにしている。	施設長が希望時や年1回面接を行って意見を聞いている。献立を特別養護老人ホームの栄養士にまかせていたが、職員の提案で利用者の希望を聞いて、職員が献立を立てるようになったり、日勤の時間帯を変更するなどの意見の反映の事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に自信を持って働けるよう、年2回自己評価を行い、本人の努力や実績に対し評価を行っている。 資格取得・研修参加も奨励している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会を実施しており、外部研修にも参加、それをもとに職員会議を利用し施設内研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の職員と交流をもち、お互いに意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に聞き取り調査を行い、困っていること・希望すること・入所に至るまでの経過・生活歴などを聞いている。初期は特に会話を多くもち、潜在的な本音が聞けるよう努力している。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に聞き取り調査を行い、困っていること・希望すること・入所に至るまでの経過・生活歴などを聞いている。入所後の利用者の状態報告を行い、意見を聞き対応に役立っている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関と相談し、対応を決める。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理方法を教えてもらったり、利用者の得意とされることを手伝ってもらっている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを密にとり、日頃から利用者のことについて話している。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問されてこられた時は、お部屋でゆっくり過ごしてもらったりしている。外出時は、なじみのところに寄り道したりしている。	月1回位のペースで友人が訪ねて来られ、笑い声はずんで楽しく時間を過ごす利用者や、教え子が訪問して来たり、ハガキを出す利用者もいる。希望が出ない方には声かけをして、近所のアイスクリーム屋さんや、馴染みのケーキ屋さんに行くなどの支援をしている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が困っている事に対し、他の利用者が助けようとされることがある。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中も迷惑にならない配慮をしながら、会いに行き話をしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望される暮らしの思いを聞き、実現できるよう取り組んでいる。 コミュニケーションをとり、思いをくみ取れるようにしている。	月1回の寄合で聞くようにしているが、メニューや行事の希望のみになっている。日常の会話の中から聞き取るようにしている。	センター方式を活用して、利用者の現わしきれない思いや意向を把握する工夫をしてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に話を聞き、本人からも話を聞くようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や過ごし方をカードに記録し、引き継ぎ時に話し合い、職員全員が情報を共有している。		
26	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、経過観測を行い、変化があれば、いつでも計画の変更が行えるようにしている。計画や見直しのたびに、家族・本人に意見を聞き、作成し同意を得ている。	計画の見直しは年1回行っている。毎日、その日の出勤者で実施するミーティングで利用者の様子を話し合い、その内容をもとに計画の見直しをしている。	入居当初のアセスメントシート、モニタリングの記録を確認することができなかった。本人、家族、職員等の意見の記録を様式に乗っ取って残してほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を毎日記録し、医療的なことは赤色で記録し、見やすい工夫をしている。生活そのままがりハビリ・ケアプランの実践ととらえている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院等で空き部屋があるときは、ショート利用者を受けいれている。 外出時には、家族を誘って家族での外出を楽しんでもらっている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや学校等との交流で色々な行事を行っている。地域の村祭りや運動会などには誘いがあり出かけている。秋祭りには地域の方が来られるので一緒に楽しんでいる。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・外科・歯科の協力医療機関がある。2週間に1回の往診と緊急時の往診が受けられる。特養の看護師にもいつでも相談できる。	大部分の利用者が近所の人のため、ほとんどの方が、かかりつけ医と協力医が同じである。かかりつけ医の診療科目以外の受診は家族と協力しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師や協力医療機関の看護師に相談し、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談をしている。医療機関と連携をとっている。	入院先は家族の希望する病院に入院するようにしている。入院時は主治医が紹介状を書き、退院時はサマリーを受けて、病院とのやりとりはスムーズに行っている。現在は利用者全員健康を維持しており、薬の調整の入院のみである。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する対応方針として契約時に看取りについての事前確認をとっている。状態変化があれば、かかりつけ医や家族に報告相談し、常に情報を共有して方針を決めている。	契約時に方針を説明し、文書で意向を確認している。状況に応じて再確認もしている。法人全体が看取りをする方針である。特別養護老人ホームの看護師の協力を得て、2人の看取りをした経験がある。亡くなられた後も地域交流ホームにおいて施食法要を行うなど、利用者の安心を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあり、見やすいところに貼っている。勉強会で実践力を身に付け、吸引器の使い方をマスターしている。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・夜間想定避難訓練・土砂災害避難訓練・通報訓練・消火器訓練を行っている。	各種災害を想定して、事業所独自で年3回、法人全体で年4回、訓練を実施している。近隣の住民は高齢者が多く協力は望めないが、同一敷地内の他事業所との協力体制は整っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議・グループホーム会議等で、話し合いをし、指示語や利用者の誇りを傷つけない言葉を使うよう努めている。 個人記録については鍵のかかる場所へ保管している。	言葉使いは、法人全体で特に気を配っている。つい、声が大きくなったり、荒っぽい言葉になってしまったりした時はその都度、職員同士で注意しあうよう、心がけている。	
37			利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者が主体であり、なんでも話し合える雰囲気づくり。		
38			日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間はおおむね決まっているが、それ以外は自由にしてもらっている。		
39			身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を聞きながら服選びをする。 気温に合わせた服装。 理美容は月1回、美容師に来てもらい、利用者自身の好みの髪型にしている。毎朝、ムースや整髪剤を使用している。		
40	(19)		食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の寄合での希望メニューを献立に取り入れている。旬の山菜で調理したり片づけもしてもらっている。	利用者一人ひとりが持っている力に応じて、買物・調理の手伝い・盛り付け・後片付け・洗物等が職員の支援の下で行われている。また利用者と職員は会話が弾む穏やかな雰囲気の中、同じテーブルを囲み同じものを楽しく食べておられた。	
41			栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の献立をベースにしている。 10時に自分の好みの飲み物、15時におやつとお茶を試飲している。 いつでも飲めるようホールにお茶を置いている。		
42			口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後のうがい・歯磨きの声掛け実施。義歯は寝る前にこちらで預かり、ポリデントを朝渡している。		

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のサイクルを把握して、トイレ誘導を行っている。個人に合った下着・紙パンツ・パット・テナーを使い分けている。	前回調査時には、全利用者が紙パンツとパットを使用されている状態であったところ、トイレでの排泄及び自立支援の向上に向けた職員の熱心な取り組みの結果、全利用者が布ショーツとパットを使用する状態にまで改善された。排便困難者に対して職員アイデアによるリンゴ酢混入のミルクを導入することで自然排便の効果を上げている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品をとりいれている。朝食時に、牛乳を飲んでもらい水分補給にも注意している。1日2回八ビリ体操を行い便秘予防に努めている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体の清潔が保てるよう体調や希望に合わせて1人ずつゆっくり入浴してもらっている。	1日おきに午後入浴が行われているが、希望があればそれ以外の時にも可能である。浴室の窓は大きく外の樹木を臨むこともでき、利用者に好評である。1日複数回の入浴を希望する利用者がおられるほどで、入浴を嫌がる利用者は一人もいない。季節湯も取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせて休憩をとる。安心して休んでもらえるよう心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬。薬情を見て、副作用の確認や薬が変更になった時には引き継ぎを行い状態変化がないか気をつけている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた介助・家事・歌や行事等を行い、利用者に教えてもらいながら協力している。月1回、利用者の要望・意見を話し合える場(寄合)をつくっている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶・アイスクリーム屋さん等、本人の希望する場所へ外出に応じている。	事業所周圍は、四季折々の樹木、植物、花等の自然の恵み豊かであり、事業所前のなだらかなスロープを下ったところにある広場(駐車場)まで散歩したり、利用者の希望を聞き取って、砥峰高原のすずき見物、フラワーセンター、バラ園等に遠出したりして支援している。1泊旅行の計画もある。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭は居室で個人管理している方もある。 職員預かりではあるが一人ひとりの財布があり、外出時や買いたいものがある時には好みのものを財布から購入している。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	メッセージや写真を送り、思いや近況を知らせている。居室に電話を置く希望があれば設置は可能。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには、職員が生けた花を飾ったりしている。本人の居室の前には、自分で作った作品が飾ってある。	居間は広くゆったりとして、天井中央は吹き抜けになっており、太い丸太の梁が見られ天井扇がある。居間東側の窓外には斜面に造られた滝のせせらぎが窓際の水槽に流れ落ち、癒しを与える。西側は掃出し窓になっていてベランダがあり、山の景色が拡がり眺望が開けている。トイレを含め、臭いはなく湿度もよく居心地よい。壁に掲載された諸行事の写真の様子がほほえましく、こころを和ませてくれる。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置は状況に合わせて移動している。廊下にソファを置いたりしている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や生活用品、個々に合った装飾品が持ち込まれ家族の写真を飾り、心地よい空間作りをしている。	広さの違う3タイプの居室があり、各部屋の入口は個人の尊厳を配慮して奥まった位置に設けられ、利用者にとって居心地よく暮らせる工夫がされている。収納ダンスのスペースが広い。タンス、机、冷蔵庫、置き時計、扇風機等好みの物が持ち込まれており、写真・編物毛糸を入れた網籠も見られた。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自分の力で「できる」が行えるように、毎年その時の利用者さんに合わせ住宅改修(手すりやすべり止めの設置・段差解消・証明器具の交換など)を行っている。		